

会長挨拶

この度、第10回日本臨床薬理学会 関東・甲信越地方会と第13回日本アプライド・セラピューティクス学会学術大会を、2026年9月5日(土)に合同で開催させていただきます。

日本臨床薬理学会では、「人々がより有効でかつ安全な薬物治療の恩恵を受けられるために貢献し、併せて臨床薬理学の普及向上を図る」ことを目指し、科学的基盤に基づいた有効でかつ安全な薬物治療の実現を目指す活動をしています。50年以上の歴史があり、平成26年からは、臨床試験を適正に行える教育・研修を行うとともに、薬物治療の向上、臨床研究の促進を計り、広く社会に対する啓発を行うために、地方会支部の運営が始まりました。本地方会は10回目の開催となります。

また、日本アプライド・セラピューティクス(実践薬物治療)学会は、「薬物治療に関して調査、評価、研究などを行い、新たなエビデンスを蓄積し、安心、安全かつ高質な薬物治療を議論、提案していく、さらに共通の目的と認識を持って薬物治療を実践していくために普及、教育などの活動を行う」組織として2009年に設立され、本学術大会は第13回を迎えます。

両学会は、医師と薬剤師が協働し、「薬物治療の適正化」の確立を目指しています。

その実現には、臨床研究の推進に加え、臨床現場での使用経験に基づくフィードバックを継続的に循環させることが重要です。千葉大学では、臨床現場における医師・薬剤師の連携を深め、ともに学び向上する機会を設けてまいりました。

一方、新型コロナウイルス感染症の流行は、ワクチン開発をはじめとする国内の創薬・臨床研究を支える基盤に課題があることを浮き彫りにしました。5類移行から3年が経過した現在も、創薬および臨床薬理に関わる人材育成の観点から、両学会がともに検討を続ける必要があると考えます。

このような背景を踏まえ、本合同大会ではメインテーマを「創薬と臨床薬理学の実践—薬物治療への貢献—」とし、企画いたしました。

今回の合同の学術大会が、臨床現場に携わる医師・薬剤師・研究者にとって有意義な会となるように、企画運営につとめてまいります。多くの皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

2026年5月吉日

第10回日本臨床薬理学会 関東・甲信越地方会

大会長 花岡 英紀(千葉大学医学部附属病院 臨床試験部)

第13回日本アプライド・セラピューティクス学会学術大会

大会長 関根 祐子(千葉大学大学院薬学研究院 実務薬学研究室)